

六国見山の富士塚

相模・武蔵・上総・下総・安房・伊豆の六つの国を見れる山の展望台は、富士塚の上に設けられています。富士塚は、富士山を信仰する人たちの集まり・富士講がその信仰のより所として、富士山に模して盛土や自然の地形を加工して造った塚です。六国見山の富士塚は盛土して造られたそうですが、元々古墳があつてそれに手を加えて造つたという説もあります。塚の頂には、明治二八年に建てられた「浅間大神」の石碑とそのそばに明治三四年に建てられた「小御岳大神」の石碑の破損したカケラがあります。新編相模国風土記稿によると、昔は浅間神社の小さい祠があつたそうです。

富士講はいくつも枝分かれして数多く派生しましたが、その系統を講紋という紋章によつて区別しました。六国見山の富士塚にある浅間大神の石碑の裏面には山の線画の下に真の字が刻まれています。これは富士講の一派である山真講の講紋です。この講紋が刻まれた石塔は、寺分と上町屋、山崎の三村の境に造られた富士塚や上町屋の天満宮、寺分の駒形神社、梶原の御霊神社にもあります。この辺りは山真講の御師が布教活動をしてきたようです。小袋谷にも山真講の講紋のある明治一七年に奉じた富士講の額が残っています。